

療育を通して運動の楽しさを教え 地域の子どもたちの成長を見守っていく



個別型の運動療育に特化した児童発達支援・放課後等デイサービス『bamboo スポーツ塾』を運営する『ふらっと』。業界一筋に経験を積んできた中川代表は、子どもの主体性を大事にした嘘のない療育を行い日々地域の利用者に向き合っている。本日はタレントの市井紗耶香さんが代表に様々なお話を伺った。



after the interview

市井 紗耶香

「bamboo スポーツ塾」さんでは、保護者の方とも密なコミュニケーションを心掛けており、毎週毎月ヒアリングを行っているそうです。中川代表の利用者やご家族を大事に思う姿勢が表れていますね。ご家族も安心して任せられると思います。これから地域で欠かさない存在となっていくことですね！」

やり甲斐を得て業界一筋に邁進
豊富な経験を蓄積して独立を果たす

——まずは、中川代表のこれまでの歩みから伺います。

身体が大きかったことから小学生の時から相撲を始め、大学まで続けました。大学の相撲部を引退して時間を持て余していた時、福祉業界で働いていた母は運動療育を行う児童発達支援・放課後等デイサービス『チットチャット・スポーツ塾』の研修に行っていて、「一度見に来ない？」と声を掛けてきたんです。今も継続しているのですが、学生の時からコーチとして子どもたちに相撲を教えたので、子どもに何かを教えることは好きだったんです。実は商社に内定が決まっていたんですが、研修がきっかけとなってこの業界に入りました。この縁を繋いでくれた母には、感謝しています。

——内定を辞退してまでそちらに入れるとは、どういった部分を魅力に感じられたのですか。

職場が「ありがとう」で溢れているところです。もちろん会社として利用者様に対して「来てくれてありがとう」という気持ちを持っているのですが、利用者様も「いつもありがとうございます」と帰る時に言ってくれて、とても雰囲気の良い事業所だったんです。

——それは気持ちよく仕事できそうですし、やりがいを感じられるでしょうね。

また、『bamboo スポーツ塾』でも同じですが、マンツーマンで運動療育を行っていくので子どもの「できる・できない」がとても分かりやすいんですね。事業所に来られる子どもたちは周りの子と比べられて運動が嫌いになった、外に出たくなくなったという子もいて、療育を通して身体を動かすことが楽しくなっ



一般社団法人 ふらっと

bamboo スポーツ塾

【1号店／大 東】大阪府大東市住道2丁目2番110号
【2号店／四條畷】大阪府四條畷市楠公2丁目8番26号
【3号店／東大阪】大阪府東大阪市東山町5番8号
URL：https://www.frat.or.jp/

ていく様子を近くで見ることができると、私も達成感が得られたんです。

——そうして天職を見つけることができたのですね。その後、独立までの経緯は？

研修を終えた後、母が立ち上げた事業所で1年半ほど働いて再び『チットチャット・スポーツ塾』に戻りました。それから経験を積んでいく中で『チットチャット・スポーツ塾ふらっと大東』を任せていただく機会を得て独立し、フランチャイズ店舗の『bamboo スポーツ塾1号店』としてスタートを切りました。

嘘のない誠実な療育を徹底
全ての世代への支援を目指す

——いざ独立されてみて、滑り出しは順調でしたか。

当事業所は完全予約制のマンツーマン指導を行う運動療育を提供していて、保護者の同伴が可能という特徴があります。ご家族はお子様の療育を受ける姿を見ることができて、終わったら一緒に帰る。こうした習い事感覚で楽しめる事業所がこの辺りでは珍しかったんですよ。それで最初から利用者様を確保することができましたね。

——業界を問わず人材不足に悩まされている会社さんは多いと思いますが、『ふらっと』さんはいかがですか。

1号店は弟と彼の友人が、2号店は幼なじみが店長を務めてくれています。スタッフからの紹介で人材は集まってくれて、アルバイトから社員になる方もいます。社員旅行にはスタッフの家族も一緒に連れていきますし、頻繁に遊びに行っていますよ。やはりスタッフがいてこそ事業が成り立つので、大事にしていきたいですね。

——紹介で人が集まり、定着率も高いことから、代表がスタッフさんを思った環境づくりをしておられることが分かりますよ。仕事をする上でスタッフさんに伝えていることはありますか。

嘘をつかないことですね。それが当事業所のポリシーです。「もう少し頑張れるけど、この程度でいいか」と自分に嘘をついて手を抜いていると、子どもの本気を引き出せません。子どもはそういった姿勢はすぐに見抜くので、逆にこちらが本気を出せば相手も全力で向き合ってくれます。「嘘をつかない・ごまかさない」を浸透させていきたいと思っています。

——代表のように、子どもと真っ直ぐ向き合ってくれる方がどんどん増えていけばいいと思います。それでは最後に、今後の目標を教えてください。

18歳までのお子様を対象にしているのですが、年齢を追うごとに運動の機会は少なくなるものです。18歳以上の方

も支援できるような施設を立ち上げたいですね。特に障がいを持っている子どもは成長と共に身体が大きくなっていくと、生活の中で制限も増えていくと思います。将来まで見据える視点で、より良い生活に導ける環境をつくりたいですね。そういったところは探すよりも自分でつくったほうが早いのではないかなと思うので、いずれ実現させたいです。

(取材／2026年1月)



代表理事

中川 結哉

子どもたちが主体的に行きたいと思える環境づくりと独自のエクササイズ

中川代表は幼児体育指導員の他、「アニマルフロインストラクター」という珍しい資格も取得している。「アニマルフロ」とは動物の動きを取り入れ自重のみで行うエクササイズのこと、自分の身体に対する認識力向上につながるというアスリートも実践しているそう。相撲の経験から様々なトレーニングを行ってきた代表も、身体の根本的なパフォーマンスの高まりを実感したのだとか。子どものほうが大人よりも柔軟性が高く、身体一つでできる運動ということもあり、bambooスポーツ塾のマンツーマン指導でも取り入れられている。

マンツーマン指導だからといって小規模な施設ではなく、フロアが広く清潔感もある環境が整えられた同事業所。クライミングウォールなど、子どもが進んで「ここに行きたい」と思えるような楽しい遊具も備え付けられている。そんな同事業所には保護者の同伴が可能なことで、家族で共通の話題も増えることだろう。立地も良く、大東市、四條畷市、東大阪市に展開されており、全施設が最寄り駅から徒歩5分圏内。親子で通いやすい点も喜ばれており、地域の子どもの可能性を開くための万全な体制が準備されている。

